

# 企画展「中谷宇吉郎と寺田寅彦」の話題から

神田 健二

## 一、寅彦の名言「天災は忘れた頃にやってくる」

これは、関東大震災の調査に奔走した寺田寅彦が弟子たちに常々語っていた言葉で、東日本大震災で、改めて思い起こされています。

自然は過去の習慣に忠実である。地震や津波は、頑固に、執念深くやってくる。しかし、天災は極めて希にしか起こらず、ちょうど人間が忘れた頃にやってくる。地震をなくすことはできないが、地震による災害は人間の注意次第で軽減することができる。だから過去の天災を忘れないことが大切なのだ、と寅彦は説いたのです。

寅彦の没後、宇吉郎がこの言葉をいろいろな機会に紹介し、広く世に知られるようになりました。しかし、寅彦の随筆には、これと似た内容はあっても、この通りの表現はありません。それで、これは「ペンを使わないで書かれた」寅彦の言葉といえます。

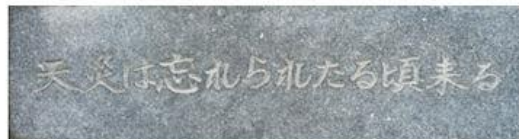
尚、寺田寅彦記念館の塀にある牧野富太郎筆のレリーフは、「天災は忘れたる頃来る」となっていて、独特な表現になっています。

そこで、寅彦の名言がどう紹介されてきたかを辿ってみました。その結果、下に整理したように、その時々で表現が微妙に変化していることがわかります。このうち、5の「自由」(1961)の記事で、宇吉郎は、それまで書いてきた表現に二つのエディション(「忘れた頃に」と「忘れたる頃に」)があることを述べています。

司馬遼太郎が寅彦記念館のレリーフを見て、「土佐弁こそ日本語？」と賞讃したという話を樋口敬二氏が紹介しています(「科学」1996・10、火災研究の開拓)。寅彦記念館のレリーフは、その八年前に出版された『国民座右の銘』を参考にしたと考えられますが、「る」の一字を加えるなど、独自の検討が行われたことが想像されます。

## 「寅彦の名言の紹介の歩み - 表現の微妙な変化 -

1. 天災は忘れた頃に来る 1938(昭13)7.9  
東京朝日新聞「天災」(中谷が執筆)
2. 天災は忘れられた頃に来る 1944(昭19)5.10  
『定本國民座右銘』(朝日新聞社。中谷分担執筆)
3. 天災は忘れられたる頃来る 1952(昭27)11.8  
高知市寺田寅彦記念館(牧野富太郎筆)



4. 天災は忘れた頃来る 1955(昭30)9.11 西日本新聞(中谷が執筆)  
1956(昭31)5.20『百日物語』  
(文芸春秋新社。中谷著。西日本新聞の記事を掲載)
5. 天災は忘れた頃来る 1961(昭36)3月「自由」(中谷が執筆)

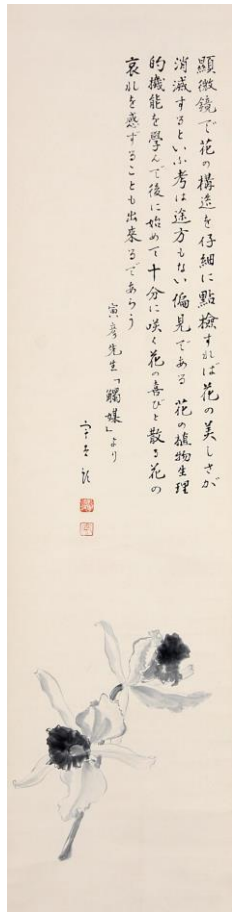
現在は「天災は忘れた頃にやってくる」がよく使われるようだ。

(この表の作成のため、山崎敏晴氏、恒石直和氏より資料の提供を得ました。記して感謝申し上げます。)

## 二、寅彦のことば・宇吉郎のことば

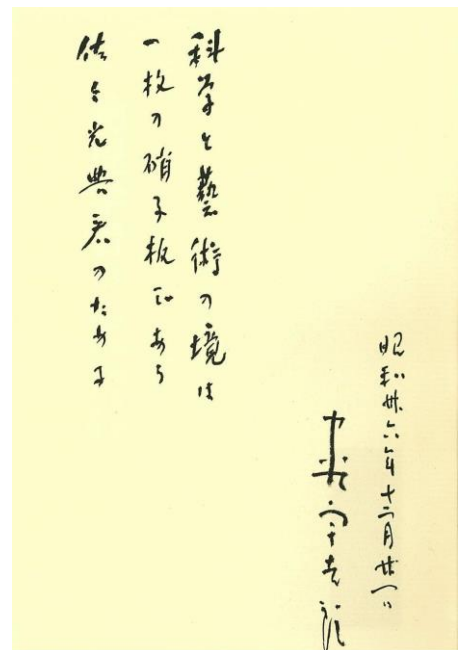
宇吉郎は、恩師・寅彦から、科学や芸術など多くの面で良い影響を受けました。そして、宇吉郎は、寅彦の意味深い言葉を紹介し、また、自分の言葉に応用することもありました。

墨絵「欄の花」に、宇吉郎は寅彦の随筆『触媒』から「顕微鏡で花の構造を仔細に点検すれば花の美しさが消滅する」という考えは途方もない偏見である。花の植物生理的機能を学んで後に始めて十分に咲く花の喜びと散る花の哀れを感じることをも出来るであろう」の一節をそのまま書き写しています。



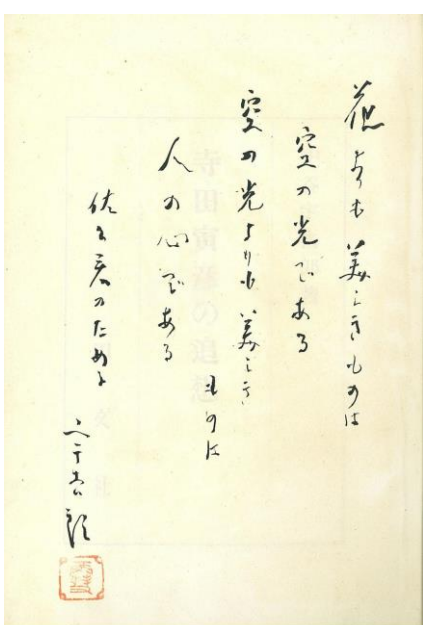
寅彦の言葉を少し手直しして書いたものもあります。熱心な読者・佐々光典の願いに応えて、宇吉郎は佐々が持参した著書にさまざまな言葉をサインしました。そんな著書が三十点余り残されていますが、その一つに「科学と芸術の境は一枚の硝子板である」があります。

これは、寅彦の随筆『柿の種』の冒頭の一節「日常生活の世界と詩歌の世界の境界は、唯一枚の硝子板で仕切られて居る。」をもとにしたと考えられます。『柿の種』には、その言葉に続いて、硝子板には、通例小さな狭い穴が一つ明いている、ふたつの世界に出入しているうちに穴はだんだん大きくなったりする、しかしこの穴の存在を知らないか知っただも捜そうとしない人もいる、きわめてまれに天の炎を取って来てこの境



てもいいと思います。多くの人は硝子の片側で活動し、時々小さな穴から出入することはある。しかし、きわめてまれに、境界の硝子板をすっかり溶かしてしまう人がいる。恐らく、宇吉郎は、寅彦こそそういう人だ、と考えたのではないのでしょうか。

『寺田寅彦の追想』の扉には、宇吉郎は、「花よりも美しきものは空の光である 空の光よりも美しきものは人の心である」とサインしています。



す。この美しい表現は、宇吉郎が亡き恩師・寅彦を想って書いたものだと思います。寅彦と宇吉郎の、類まれな良き師弟関係を思わせる言葉です。